

2013年3月29日

新宿区長 へ

法人名 NPO 法人ライフデザイン研究所
 所在地 新宿区新宿 5-18-20-9F
 (フリガナ) シミズ コウ
 代表者氏名 理事長 清水 康

事業実績報告書

新宿区協働推進基金条例施行規則第19条の規定により、下記のとおり報告します。

記

1 助成対象事業

事業名	ライフエンディングサポーター育成講座
実施日時又は期間	平成24年6月8日～平成25年1月31日 (講座・研修会実施：平成24年9月16日、21日、10月7日、12日、19日、21日 14:00～16:00)
対象者の範囲及び人数	新宿区在住、在勤、在学（隣接区希望者） 10～30名
事業内容	エンディングサポート講座、ライフエンディングサポーター研修会の実施、及び広報誌作成。
具体的な活動状況	<p>■エンディングサポート講座（講師：直江花子） 平成24年9月16日 14:00～16:00 ①葬儀費用の落とし穴 参加者10名（男性2名、女性6名、スタッフ2名） エンディングノート販売 1冊 テキスト販売 3冊 葬儀Q&A販売 4冊 ・最近のお葬式の傾向・お葬式の種類・葬儀費用のしくみ・葬儀費用ってどれ位？ ・お葬式総費用の内訳【葬儀費用・実費費用・宗教者への御礼】・お葬式費用のトラブル事例・失敗しない葬儀社選びのコツ(葬儀の流れ)</p> <p>平成24年10月7日 14:00～16:00 ②「お墓の承継と供養」 参加者8名（男性0名、女性6名、スタッフ2名） ・お墓の歴史・お墓参り・祭祀承継者・墓の承継問題・墓地選びの流れ・お墓の費用・お墓の種類・新しい埋葬方法と供養（散骨・手元供養）・お墓のリフォーム（改葬） 平成24年10月21日 14:00～16:00</p>

	<p>③「ライフエンディングサポーター入門」 参加者 12 名（男性 2 名、女性 8 名、スタッフ 2 名） テキスト 3 冊販売 ・傾聴の心構えを身につけよう（話を聴く、アドバイスしないなど） ・専門的知識を身につけよう・専門の窓口を知っておこう（社会福祉協議会・地域包括支援センター・成年後見センターなど） 「エンディングノートの書き方」 ・エンディングノートを書く意味・メッセージを残そう・遺言書との違い・託す人・託す方法 *傾聴ボランティア:カウンセラーとは異なり特別な資格を有さず、「傾聴(人の話をただ聞くのではなく、注意を払って、より深く、丁寧に耳を傾けること)」することで話し手自身が答えを見つけ、気持ちの整理がつくようサポートする。</p> <p>ライフエンディングサポーター研修会 ①「葬儀費用の落とし穴（復習）」 平成 24 年 9 月 21 日 14:00～16:00 参加者 4 名（男性 0 名、女性 2 名、スタッフ 2 名） ・葬儀社の種類と特徴・葬儀をする場所の種類・葬儀費用のしくみ ・葬儀の流れ</p> <p>②「役立つ葬儀の心得」 平成 24 年 10 月 12 日 14:00～16:00 参加者 6 名（男性 0 名、女性 4 名、スタッフ 2 名） ・葬儀費用を考える・要望まとめのコツ・ご遺体の安置先・お葬式の人数・お葬式の種類・宗教（形式）について・予算を決める</p> <p>③「ライフエンディングサポーターの心得」 平成 24 年 10 月 19 日 14:00～16:00 参加者 8 名（男性 2 名、女性 4 名、スタッフ 2 名） テキスト販売 6 冊 エンディングノート販売 2 冊 ・相談者の気持ち・傾聴ボランティアとは・傾聴の基礎知識・グリーフケア（悲嘆回復）について</p> <p>講座修了後報告書（広報誌）作成。発送 11/25。</p>
<p>事業の成果</p>	<p>参加者の年齢が 40 代～80 代と幅広く、本人の講座参加により終末期に関しての不安解消だけでなく、若い世代の参加者は高齢者を支える立場として知識を吸収してもらうことができた。 参加者同士知り合ってそれぞれの現況について情報交換、地域社会で助け合う相互扶助の精神を培うことができた。 講座参加者の中には、前向きにライフエンディングサポーターになりたいとボランティア参加を希望している人もおり、その人たちを巻き込み、今後も講座を実施していく予定である。</p>

2 助成対象事業費内訳（実績）

※ 内訳は、できるだけ「単価×数量」で示してください。

※ 1万円以上のものについては、領収書（写し可）を添付してください。

収入	経費	積算根拠（内訳）		金額
	団体負担金			302,196 円
	参加費・資料代等	申請書テキスト代 12,000 円 (500 円×24) エンディングノート 5,040 円 (1,680 円×3) 書籍 5,040 円 (1,260 円×4) テキスト 4,200 円 (350 円×12)		26,280 円
	その他の収入			0 円
	協働推進基金助成金	助成金申請額		500,000 円
	計			828,476 円
支出 （助成の対象になる事業費の内訳）	費目	決算額	内訳	
	会議費	4,800 円	四谷地域センター4800 円 (1600 円×3 回) * 領収書⑬-1.2.3	
	宣伝費	199,657 円	チラシ印刷代 26,250 円 (12.5 円×1000 部×税×2 回) * 領収書①A 印刷折り込み代 92,925 円 (②5000 部 : 37,170 円+③7500 部 : 55,755 円) * 領収書⑧-1.2 チラシデータ作成 5,250 円 郵送代 10,032 円 (66 円×152 通) * 領収書⑦ 切手・レターパック代 27,190 円 (切手 24940 円+レターパック 2250 円) * 領収書⑨ 長 3 封筒 38,010 円 (2,000 枚×18.1 円×税) * 領収書①B	
	リース費	0 円		
	消耗品費	124,873 円	トナーカートリッジ 115,027 円 ((12,000×2+13,810×5+16,500)×1.05) * 領収書② ラベル 1190 円 (12 辺×100 枚) 筆記用具等備品 4725 円 (消しゴム 198 円、シャーペン 255 円、クリップ 42 円、クリアフォルダ 229 円、リングファイル 570 円、綴りひも 270 円、クラフトテープ 148 円、インデックスラベル 118 円、ボールペン 445 円、テプラテープ 1090 円、表紙用コピー用紙 980 円、マグネット 380 円) 製本テープ 1191 円 (397 円×3 色) ゴミ処理券 2740 円	
	謝礼	20,000 円	ボランティアスタッフ 20,000 円 (a 500 円×16 回、b 500 円×17 回、c 500 円×7 回) * 勤務整理簿	

人件費	120,000 円	講座・研修スタッフ（当日）48,000 円（4,000 円×講座 2 名×3 回、4,000 円×研修会 2 名×3 回）＊勤務整理簿 事務局スタッフ 72,000 円（4,000 円×18 回）＊勤務整理簿
材料費	53,460 円	補助教材用エンディングノート 26880 円（1344×20 部） ＊領収書③ 販売・講座資料用書籍（葬儀Q&A）8064 円（1008 円×8 冊） 販売・講座資料用書籍（お墓選び方・祀り方）5200（1040 円×5 冊） A4 用紙 7794 円（2598 円×3 箱） 角 2 封筒 1159 円（18.4 円×60 枚×税） 費用テキスト 2457 円（93.6 円×25 部×税） 三つ折りパンフ 1543 円（24.5 円×60 部×税） ペラパンフ 363 円（5.77 円×60 部×税）
交通費	5,860 円	タクシー代 4,260 円 移動・荷物運搬用（710 円×6 回） ＊領収書⑩-1.2.3（スタッフ 1 名、ボランティア 2 名移動） 会場申し込み関係交通費 320 円（160 円×1 往復 事務所-四谷地域センター） 当日スタッフ交通費 960 円（160×3 往復 事務所-四谷地域センター） ボランティア募集登録交通費 320 円（160 円往復 事務所-新宿社協）
その他諸経費	84,522 円	普及啓発用広報（報告）印刷代 51,765 円（49.3 円×1000 部×税）＊領収書⑪ 送料 24,882 円（66 円×377 通）＊領収書⑫ テキスト作成参考資料 7875 円（新傾聴ボランティアのすすめ 1680 円+心ふれあう「傾聴」のすすめ 1575 円+グリーンケア入門 2520 円+悲嘆学入門 2100 円）
助成対象事業費（小計）	613,172 円	
余 剰 金	91,219 円	
助成対象外事業費	124,085 円	事務局スタッフ人件費 56,000 円（4,000 円×14 回）＊勤務整理簿（助成対象事業費 20%超過分） 事務局スタッフ人件費 67,500 円＊勤務整理簿（1 日上限 4,000 円超過分） 飲料 585 円 ボランティアスタッフへ支給
事 業 総 額	828,476 円	

3 助成事業の成果と課題

評価のポイント	自己評価
事業を計画した当初に決めた目標について、どこまで達成できたか。	目標：「終活」に対して前向きに理解し実施する人を増やす。 →講座参加をきっかけにエンディングノートを購入するなど、考えるだけでなく実際に「終活」を

	<p>始める人が出た。</p> <p>目標：終末期について不安を抱える人に対して情報提供し不安を解消する。</p> <p>→講座では質疑応答の時間を設け、講座修了後個別の相談を受けたことで、参加者の不安を解消できた。</p> <p>目標：終末期のサポーターを増やす。</p> <p>→講座修了後参加者からボランティアの申し込みがあり、継続的なライフエンディングサポーター研修を行う予定。</p>
地域にどのような効果があったか、又は今後見込まれる効果は何か。	<p>講座参加者が友人や家族を連れてくるなど、講座参加者から終活が地域に広がっていく実感があった。また、参加者同士で各自が行っている活動を伝え合ったりボランティアを紹介したり、講座をきっかけとした社会貢献の広がりを感じた。</p>
費用対効果は適正であったか。	<p>広報の告知時期をうまく活かせず、当初予定していなかった新聞折り込みなどを行い集客したが、参加者は費用を出してでも参加したいという強い意志があり、積極的に意見を出してくれたため人数が少ないながらも濃い会となった。</p>
新たに気づいた課題・問題点は何か。また、どのような対策が考えられるか。	<p>研修会・養成講座後も継続的に参加できる講座等の問い合わせが複数あった。予定が決まっていないためHPなどの勉強会予定を案内したが、年間スケジュールなどで講座を設けておくなど継続的な参加の受け入れ体制が必要である。</p> <p>また講座日に参加できないという問い合わせもあったが、別日での対応が難しくテキストを購入してもらおうというような対応となってしまったので、今後の課題としたい。</p>
理解者や支援者が広がったか。	<p>複数回講座・研修会に参加した方は、継続して勉強をしたい、ボランティアを行いたいとっており、今後エンディングサポーターとして活動していく予定である。</p> <p>また、エンディングサポーターの受け入れ先として検討している寺院も興味を持ってきており、ボランティア派遣を勧めていきたい。</p>
事務局の執行体制は十分だったか。	<p>講座実施担当と講師が同じだったため、講座内容の準備と集客を同時に行ったため、集客が思うようにいかないところがあった。今後実施する際には、講師と実施担当を分けそれぞれに時間を取れるスケジュールにする必要がある。</p>

<p>今回の事業を次年度以降も継続していく場合、助成金だけに依存せず、今後も安定的に事業を継続するための財源確保等に向けた取り組みはなされていたか。</p>	<p>参加費とは別に書籍の販売、テキストの販売を行った。講座参加者からは一定数の購入者がいるため、財源確保の一つとして強化していく。今後講座を行うに当たっては、他の団体などと協力することも検討している。</p>
<p>その他</p>	

4 活動の成果

- * 事業の成果物（冊子など）又は、事業の開催時の写真など提出できるものがある場合は添付してください。
- * 参加者の意見なども報告してください。